

# 東

Bブロックにエントリーされた全12作品を公開します。

覇者となったのは果たして誰??

<http://www.columnland.net/> にてごらんください。



—おい、鈴木！

駅前コンビニでいつものように立ち読みをしていると、突然後ろから話しかけられた。あわてて振り向く。

—久しぶりだな、元気だったか？

目の前には、少し背の高いごく普通の男。

あれ、こいつは誰だ？ 話しぶりからして知り合いか？

—中学で別れて以来だな、最近どうしてるんだ？

…そうだ、中学の時に一緒だったやつだ。見覚えがある。

えーと、名前は…。あれ、名前なんて言ったっけ…

—どうした？ もしかして俺の名前忘れたとか？

やばい、凶星だ。今すぐ思い出さないと…。

—はは、俺目立たなかったしな、覚えてないのも無理ないよな…

うわ、こいつ寂しそうに言うなよ、今思い出してやるから…

…えーと、…ああそうだ、思い出した！ 確かこいつの名前は…

「すまん、今思い出したよ。東、久しぶりだな！」

すると、今まで笑っていた男の顔が引きつった。俺はやっと思いだした、

こいつは東あずまじゃない、東ひがしだ…！

『東』ひがし

東

犬が西向きや尾は

東

…こんな当たり前のことわざがなぜ今も残っているのでしょうか??

「僕の対面にドミニカ共和国」

「佐伯君、今夜空いとるかね？」

・ 誰を恨めばいいのカナ・

第1候補は間違はなく岡部だ。あいつがはしかにかかるから。でも僕は知ってるぞ。あいつははしかになんかかかっちゃいないんだ。彼女とインディーズでちよっと人気のあるバンドのライブに行ったんだ。部長との約束があったのに。あったのに……。しかもはしかとか使うあたりが巧妙だ。大学生の弟がいることを絶妙のタイミングで使いやがった。今年度の絶妙グランプリに間違いなくノミネートされるに決まってる。まあグランプリを取れるかどうかは下半期の結果をしてみないと何とも言えないけどな。ざまあみる。第2候補はそうだなあ、下山さんかな。この人、大した腕もないのに空気も読まずに鳴きやがって、さっきので間違いなく流れが変わったんだ。今年度の空気読まないグランプリ、まあこのくだりはもういいか。と言うかもうここまでくると逆に下山さんが第1候補かもしれないぞ。だってなんだかんだで、いやいやいや、岡部は許せん。あいつは絶対許せん。だってあいつの彼女は可愛いんだからな。岡部なんてどうせそのライブなんか全く興味ないんだ。ライブ行く前にちよっと音を聞いて行ったりして、そんなで適当に乗って、それで「あの3曲目あたりからまじやばかったね。」とか言っちゃよっとオレ、結構わかってます的なオーラを醸し出すに決まってるんだ。岡部なんてそんな奴だ。そう考えるとあの岡部と言う男は凄まじいな。僕の24年間の人生の中でこんなに1人の人間を恨めしく思ったことなんか1度もないぞ。凄いな岡部。あつぱれ岡部。2位と4・5ゲーム差をつけて前半戦を終了したぞ岡部。まあ優勝できるかどうかは後半戦の結果をしてみないと何とも言えないけどな。ざまあみる岡部。ああ人が人を危めたりとかするときの気持ちはきつとこんな風なんだろうなあ。なんだか頭がボウツとするやあ。もう決めた。もう決めたぞ。誰も僕を止められない。止められないんだからな!!!!

『部長、それ・ロンです。……字一色です・』

『……佐伯君』

『は』

『私はねえ・嬉しいよ』

『……は……!?!?』

『私はねえ・寂しかった。私の周りには私の顔色ばかりを伺っていて、本気でぶつかってくる者などいなかったよ。佐伯君、君の字一色、心に・ドーンと・響いたよ。魂の、そう、魂の字一色だったよ。佐伯君・ありがとう』

『……部長』

僕は泣いた。部長は微笑んでいた。下山さんはガルベス君を連れてそっと席を立った。下山さん、空気・読めてますね。僕は部長と2人で夜を明かしたんだ。うらやましいだろ岡部。僕の部長の方が、よっぽど、よっぽど・可愛いんだからな!!!!

・ 誰が幸せ掴むカナ・

## 東

今の自分は変なのか？

この一文字・・・

トンとしか読めない！！

心の中で鳴っている。あのキャラメル大の大きさの牌が何百とこすれて奏でるジャラジャラという、まさに至福の音・・・抵抗しても無駄だ。それは特定の人のみに矛先を向け抗いようもない引力を放っているからだ。

おれがそいつの引力に引っ張られ始めたのは一ヶ月前からだが、そいつは引きつけた人間のその日の睡眠時間をほぼ百パーセント0にしてしまい、その人の生気を食らってしまうということが最近わかった。

生気を食われ続けて一ヶ月・・・

頭の働かない う〇こ製造機と化してしまいました。

横断歩道を駆け出した私の恋人が、二人乗りのバイクに跳ね飛ばされた映像は今も私の目に焼きついている。・・・即死だった。

——未来へ——

午前二時。

私はひとり海を目指して家を飛び出す。到着する頃には、ちょうど朝焼けの海が拝めるだろう。

私は趣味で自転車をやっている。クネっと曲がったハンドルに、細いタイヤのアレだ。自転車はいい。心地よい風だけが私のすべてになる。

こんな時間ともなると、さすがに道は空いている。等間隔に並ぶオレンジ色の灯りだけが、孤独な私を導いてゆく。トンネルを抜けてもその単調な景色は変わることを知らず、その無機質な一本道に私は徐々に不安を抱く。私は赤信号で停車するたび、後ろを振り返ってしまふ。「後ろ」の幸せだった日々が逆に私の足枷となり、「前」へ進むのが怖くなる。信号が青に変わっても力強くペダルを踏めず、フラつく。

この先本当に目的地はあるのだろうか。  
この先本当に朝は来るのだろうか・・・

午前三時。

二人乗りのバイクが大きなエンジン音をたてて私の横を通り過ぎる。忘れもしない残酷な光景が鮮明に思い出され、湧き出る感情をどうすることもできなくなる。信号も道路標識も、目の前のものすべてが涙でにじむ。

午前五時。

目の前に上り坂が現れる。ここまで来るのだって苦労したのに、こんな試練が待ち受けているとは。

苦しい。呼吸は乱れ、速度も落ちてゆく。

・・・私は、何をやっているんだ。なんでこんなに苦しまなくちゃいけないんだ。この世界に、もう私の愛する人は存在しないのに。

・・・地面に足をつこうとした瞬間、ふと私の胸に彼女の透き通るような声が吹きぬけた——あたし、大好きよ。何かに向かって一生懸命ががんばるときの、まっすぐで綺麗なあなたの目——彼女が事故の三日前に、なにげなく私に言ったせりふ・・・

・・・目が覚めた。

こんなところで立ち止まって、何かが起こるわけがない。前へ進め。全速力で駆け抜ける。この苦しみを乗り越えてやるんだ。

試練の無い人生なんて、そんなものありえない。自分の命を必死に燃やさない奴に、人を思う資格なんか無い。

私は、この坂を登りきってみせる。彼女のために。自分のために。

・・・東の空が、明るくなってきた。

さあ頂上まであと少し。ここを抜ければ、朝日に輝く海が見える。新しい私、新しい未来への、スタートラインだ。

東京に出てきて始めて知ったこと

一、畑が無いこと

二、東京ハンズではなく東急ハンズ  
であること

三、渋谷にあるのは901ではな  
く109であること

陽は昇らなかつた。

東の空は重い闇に覆われたままで、どれだけ待っても、そこから光が差し込んでくる気配はなかつた。

人々は来ない夜明けに、不安を募らせ、ささめきあつた。中にはそのいつまでも続く夜に耐えられず、暴動を起す者もいた。太陽の光が地上を照らす代わりに、人が建造物に放つた火が、空の下を赤々と照らし出した。

長老達は会堂を開いた。終らない夜。未だかつてないことだ。このままでは作物も育たない。いや、昔の昔のそのまた昔にも、明けない夜はあつたという。それなら聞いた事がある。何年も朝の来なかつた暗黒の時代、御伽話だと思つていた。陽を呼びに、幾人も人間が旅立つたが、成功したのは一人だけ、という話。そらだ、しかしその一人も帰つては来なかつた。

陽がやつて来ないのならば、此方から呼びに行かねばならない。白羽の矢が立てられたのは、まだ年若い少年だつた。

少年はカンテラを手には旅立つた。長い長い夜の中を、一人、灯りで闇を照らして太陽の住むという東へとひたすらに歩いた。通り過ぎる町や村はどこも似たような惨状だったが、誰を選ぶかで揉めて、少年と同じ役目を背負う人間を實際に出した所は少なかつた。また、同じ役目を背負つた筈の人間でも少年が遭遇したのは、旅立ちはしたがその途中の至る所で虐待を受け、永久に目的を果たすことの出来なような人間だつた。

少年は水や食料を補給する他に足を止めることなく、旅を続けた。

歩き続けて少年は、東の果てへと辿り着いた。果てはそれまで少年が歩いて来た暗闇の世界とは違って薄明るく、その先には地面がなく断崖絶壁が旅人を待ち受けているだけなのが離れた場所からでも分つた。近付いてみるとそのぼんやりとした明るさは、崖の上を埋め尽くしている霧の向こうから来るようだった。この先に陽があるのだろうか。

しかしその霧の向こうへと渡る術はなく、少年が途方に暮れていると、ふとその目に黒い奇妙な物体が留まつた。

よくよく見るとそれは黒焦げになつた人間の死体のような物で、多少乱雑ではあれど、一列になつて幾つも転がつていた。そしてそれを辿つた崖の部分には、一本だけ、吊り橋がかかつていた。

吊り橋の終着地は霧に飲み込まれていて見ることは出来なかつたけれど、少年は残された唯一の道に歩を進めた。霧の密度は高く、カンテラの灯りがあつてもやつと足元が見える程度で、足前に出したその先に、踏み場があるのかどうかさ定かではない。それでも少年は進んだ。進んだ突きあたりには一枚の扉があり、少年は半ば手探りでそれを開けた。

扉の先は、少年が今までにまるで見たことのない、変わった部屋だつた。部屋は昼のように明るかつたが、壁も床も無機質な素材で覆われ、およそ人間的な暖かさといったものは感じられない。その中央に何故か焚き火があり、そのすぐ側に髪も髭もぼうぼうに伸びた一人の男が座つていた。

やつと来たか、と男は言った。

少年は得体の知れない物質の並ぶその部屋を見回し、他に出口がないことを確認し、視線を泳がせながらその男に目を戻した。

呼びに来たんです、と少年は掠れた声で言った。

—ああ、分つている。陽を昇らせたいんだろう？それなら早くこれを受け取つてくれ。俺はもうこんな所はこめんだ。

少年は男の突き出した鍵束をじつと見つめ、あなたは太陽ではないのですか、と問うた。

—残念ながらそんな物はもうこの世には存在しない。あるのはここで管理する、人工太陽だけだ。疲れたんだ、俺は太陽を呼びに行けと言われて信じて来たはいいが、あるのはこんな部屋だけで、訳も分らないまま前の人間から役目を押し付けられてもう百数年。限界だ。誰が毎日太陽なんを昇らせてくれるか。

少年は、髪を振り乱し眼を血走らせて半ば叫ぶように啞く男を見据えて、このまま外に出て黒焦げになると、鍵束を受け取つていずればこの男のようになるのとどちらがいいか考えた。

## 家

嫌なことがあった。

世界全てが敵にみえた。世界全てが嫌いになった。ついでに自分も嫌いになった。

私は部屋からでたくなかった。

傷つく前に殻にこもった。

そこは安全だった。

信じなければ裏切られなかった。

外の世界から自分を隔離し、ただただ時がすぎるのを待った。いつまで待てばいいのかもわからず、そのうち時がすぎているのかもわからなくなった。

だがあるときあまりにお腹がすいて、そっと部屋からでてみた。薄暗さ、静けさからいつて朝らしく、幸い家族はみんな寝てた。

私の家のおつきい窓は東向き。

リビングに入ると一瞬眩しすぎて目が開かなかった。

久しぶりにみる太陽が私を照らしてくれた。

それはとても暖く、優しく私を包んでくれた。

そのときふとこう思った。

—私はこの家が好きだ—

世界の中で好きなものができた。

他のものも好きになれるんじゃないかと思えた。

## 東と西を分かつ壁

今日も壁の向こうから紙飛行機が飛んでくる。一日に一機だけ、短いメッセー지를搭載して、監視をかくぐつてくるのだ。

私はそれが大好きだった。「今日は天気がいい」とか、「休日が楽しみだ」とか、実にたわいもないメッセージが、この冷たい隔たりの向こう側でも、ちゃんと日常は続いていると伝えてくれるようで、なぜか私は、それがたまらなくうれしかったのだ。

いつの頃からか私も、短い返事を飛行機に託して、壁の向こう側に投げ返すようになった。一度飛んだらそれきりだった紙飛行機は、何度も行き来するようになり、最後にはインクで真っ黒になった。

手紙の主は、私とそう歳の変わらない少年だった。相変わらず、やり取りは一日一回だったが、お互い色々な話をした。自分のこと、家族のこと。まるで、いつか読んだ小説の恋人同士のようにだと、私は思った。

だから私は、迂闊にも返事の最後に、

「逢いたい」

なんて書いてしまったのだ。

驚いたことに紙飛行機はすぐに返ってきた。

「今から行くよ」

間もなく壁の向こうが騒がしくなった。スピーカーを通した怒声、観衆らしき歓声、野次、銃声、小さな悲鳴、壁の上から手が見えた、歓声、怒声、再び銃声、手が見えなくなった、どよめき、どよめき、どよめき……。

私は壁の前で立ち尽くしていた。何が起きているのか、考えられなかったが、もう紙飛行機は飛ばしても返ってこないだろうことは何となく分かった。ただ立っていることしかできなくなった。

## 賛歌

眠らない街東京

日本最大の都市東京

日本の都市の中でおそらく海外で一番知名度が高いであろう都市東京

私は東京が大好きである。この春に東京に越してきたが、こんなに便利な生活はないといえる。

私の生まれ育った所はそれはもう情けない場所であった。不便さは筆舌に尽くしがたい。家から歩いていける距離にはコンビニもない。三和も九時には閉まる。あるのは豊かな緑だけ。

しかし、緑があっても何の意味も成さない。子供時代の私は大のテレビゲームっ子であったため、結局森の中で遊んだ記憶がつかない。まったくもって意味が無い。

それに比べて東京はどうだろう。機能美を追求したコンクリートジャングルの美しさ。東京の夜景の素晴らしさは東京には空が無いと言われていくことを忘れさせてくれる。

よく「人間は便利さを追い求めた結果かえって不自由になった」というような意見を聞くが、それを書いている人は普段便利な生活を送っているからそんなことが言えるのだろう。

そういう人は是非スローライフを送ってみたい。すぐに都会が恋しくなるだろうと思う。

私はそのような無責任な文明論を述べるつもりはない。東京は便利である。だから私はとにかく東京が好きだ。

## 「四方より向き合いて戦わん」

わが王よ、なぜですか？

私はいかなる政策もこの東ノ国を強国にし、北、南、西それぞれの国を下すためと信じ、仕えてまいりました。二年前、西の国が東の国の同胞が国外に捨てられたときにも主がアツサリとお見捨てになったのも何か深い考えがおありになるのだろうと思ひ断腸の思いで従いました。

わが主よ、なぜですか？

なぜ、今となって国外に捨てられる北の国や南の国の者をポンポンと簡単にお救いになり、自国にお入れになるのですか？

わが身には、心には、「東」の一字が刻まれております。あなたは私たち東ノ国の民を救う義務があるので、他国の者など必要ありません。私はあなたが初めて王の席に座したときは英雄、劉邦の再来かと思つたほどです。あなたは光り輝いていました。今一度、私は忠言いたします。他国の者を国に入れるのはおやめください。彼らは私達に利益をもたらしません。よけいな場所を取るだけです。どうかわが主よ、御再考を。

主と呼ばれた者は何も聞こえないかのように眉ひとつ動かさず見事なポーカーフェイスを貫いている。

わが主よ、わかりました。あなたの考えはわかりました。私の言葉は届かぬようです。自国の民を大切にしないあなたは劉邦ではなく、紂王であつたようです。あなたは暴君です。

・・・それでも私はあなたについていきます。あなたは私の選んだ主なのだから。私の最後の忠言です。覚えておいてください。自国をおろそかにするものは決して戦いには勝てな・・・

戦いに勝つ方法？まさか・・・。

賢君と呼ばれた者は人には思いもつかない大胆かつ奇抜な手を打つてまいりました。賢君に必要なものそれは知恵と度胸、そして何者にも負けぬ運と言われています。もし私の考えた通りなら・・・あなたをもう一度信じます。見せてください。あなたの真実を。あなたは賢君か、暴君かの判断に足りうる証拠を。

主と呼ばれた者は何も聞こえないかのように眉ひとつ動かさず見事なポーカーフェイスを貫いている。

二年後。私は愚か者です。あなたは真に立派な賢君でした。あなたがこんな手を狙つていようとは。私は考えもみませんでした。いえ、あまりに難しい手段なので思考から除外してしました。あなたはいつも、私達を遥かなる高みから見下ろしていました。私はあなたの考えすら理解できない愚鈍な家臣でした。

・・・私はこの戦いが終わつたらあなたのもとから去るでしょう。あなたを疑つた私が許せないから。あなたに仕えられたことは私にとっての珠玉の幸せでした。さあ、西ノ国の王が我らの同胞を捨てました。今こそ好機です、わが至高の主よ。戦いを終える言葉を放つのです。

主と呼ばれた者のポーカーフェイスが砕け、西の国の王に向けて、にこやかな笑みが浮かべる。

「ロン♥四喜和 やつくまーん♪。」

じゃらじゃらじゃら

牌がかき混ぜられる。東の牌がかき混ざる。

さようならです。わが至高の主よ。

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	方角～その指し示すもの～	15 pt	3 位	4 sp
		<p>パ クマンにいきなり大爆笑。目を消してある遊び心もナイス。</p> <p>そして展開されるトンデモ起源。南を分解するとプラスとお札、だなんて、呑み会ネタでも行けそうなく(ただし、場によっては凍るかも)。手をかけた職人芸にも唸りました。</p> <p>象形文字である漢字だからこそその遊びですね。やあい、無個性のアルファベットじゃこんな知的遊戯はできないだろうとちょっと嬉しくなりつつ、あんな漢字、こんな漢字とパ クマン視線で戯れてみたくになります。</p> <p>小学生に教えたい。そんな楽しい今週の表紙でした。特別賞を5個も攫った上に、チョコパイ一箱まるごとゲット、おめでとう!</p> <p>特別賞：アイデア賞/賞(賞品狙いをストレートに書いたところ)/強引で賞/よくやった賞(図まで使った気迫)/俺にもチョコパイ下さいで賞</p> <p>イチオシフレーズ：「チョコパイください」</p>		
A02	Eastern Boy	3 pt	8 位	0 sp
		<p>やっぱり出ました宮崎県知事。公人ですから、フルネームで登場していただいて構わなかったと思います。</p> <p>前半は正体をじょうずに隠して、太陽のもとで輝くと笑わせて。形はできているのですが、東奔西走のあたりに、政治家っぽさを描き込むと、もっとらしくなったのでは。「北に結婚式あれば行って爆笑スピーチで笑わせ」みたいに。</p>		
A03	隣の東さん	5 pt	6 位	0 sp
		<p>ちょっとしたカンチガイ。でも、なかなか言い出せなくて。</p> <p>そんなシャイボーイ同士のぎこちないやりとりが、空白も含めた巧みな演出で伝わってきました。見せ方のうまさですね。</p> <p>ときに、アンコの謎はどこへ?</p>		
A04	東の庭	18 pt	1 位	2 sp
		<p>ぐれいと! ラストでさらりと冒頭に戻って、抱きしめたくなるほど、いとおいしい結末。感興の盛り上げ方にブラボーです。</p> <p>ついに念願の首位ですね。こもれびの庭に幸あれ!!!</p> <p>特別賞：木洩れ日賞(木洩れ日と東をつなげるのが上手)/ういてる賞(男くさい)</p> <p>イチオシフレーズ：「天使は、いた」</p> <p>「まったくお前ってやつは...」「あそこの『き』とおひさまの『ひ』」</p>		
A05	その後	2 pt	9 位	0 sp

		<p>ジパングなれの果て。あれほどに憧れられた黄金の国が今はもう……</p> <p>誰もいない浜辺のようなさびしさが漂ってきます。ただ、もう少し言葉がないと、伝えたかったメッセージが汲み取れないのでは。</p> <p>イチオシフレーズ：「黄金はない」×5 でイチオシフレーズ大賞ゲットです、おめでとう!!!!</p>			
A06	東へ	<table border="1"> <tr> <td>16 pt</td> <td>2 位</td> <td>0 sp</td> </tr> </table> <p>「真っ直ぐ」それが僕たちのキーワード。チャットのくだりなど、実話かなあ、と思える臨場感で、友情のすがすがしさにほろりです。会話メインで展開という表現法がみごとに効いてますね。</p> <p>同じ場から巣立ちながら、少しずつ違ってゆく進路。それでもこの友情が永く続きますように。</p> <p>みんなの共感を熱く誘ってのひよ子2羽ゲット、食べたりしないで、たいせつに育ててくださいませ(え)</p> <p>イチオシフレーズ：「後期であっさり受かる奴なんて死んじゃえばいいのに」</p>	16 pt	2 位	0 sp
16 pt	2 位	0 sp			
A07	THE WALL(1961-1989)	<table border="1"> <tr> <td>6 pt</td> <td>5 位</td> <td>0 sp</td> </tr> </table> <p>むかし、壁がありました。世界を仕切る壁でした。</p> <p>そんな時代の敵意の対峙のありようを、極限まで刈り込まれた言葉でみごとに造型してグレートです。相手があるからこそ燃え上がる敵愾心。愛と憎しみは同じだな、なんて、しょうもないことまで考えてしまいました。</p>	6 pt	5 位	0 sp
6 pt	5 位	0 sp			
A08	助けて！Wiki先生！	<table border="1"> <tr> <td>0 pt</td> <td>12 位</td> <td>1 sp</td> </tr> </table> <p>タイトルに、せっぱつまった感が出ています。</p> <p>しかし、内容はできごと「そのまんま」なので、ちょいと御自身の感想があるとよろしい。</p> <p>でもって、ラスト1行はないほうが良いでしょう。読者に甘えるのは御法度です。</p> <p>特別賞：へえ賞(12につられて)</p> <p>イチオシフレーズ：「おまえはそのまんま”東”だよ」「へえ」</p>	0 pt	12 位	1 sp
0 pt	12 位	1 sp			
A09	目覚め	<table border="1"> <tr> <td>2 pt</td> <td>9 位</td> <td>0 sp</td> </tr> </table> <p>全身で「自然」を浴びることによって、自分の中の何かが目覚めてゆく。</p> <p>「心の底から目覚めたような気がした」まさに自然体のこの文体が似合う内容でした。すがすがしい読後感です。</p>	2 pt	9 位	0 sp
2 pt	9 位	0 sp			
A10	ひがしの町	<table border="1"> <tr> <td>5 pt</td> <td>6 位</td> <td>0 sp</td> </tr> </table> <p>三途の川を渡って小さな停車場にしばし滞在、また生まれ変わってゆく、そんな輪廻転生の世界観でしょうか。旅が、人生が、嫌いだけれど嫌いじゃない、と揺れる心持ちが会話から伝わってきます。柔らかな雨とともに旅立つという設定もユニークで、雨に輝く彼女のイメージも鮮烈でした。</p> <p>「東」であることの必然性をもう少し前面に出すとよいのでは。西方浄土の逆？</p>	5 pt	6 位	0 sp
5 pt	6 位	0 sp			
A11	ある日の相談室	<table border="1"> <tr> <td>1 pt</td> <td>11 位</td> <td>1 sp</td> </tr> </table>	1 pt	11 位	1 sp
1 pt	11 位	1 sp			

		新幹線君も42歳。悩み多きお年頃。鉄道への愛着が擬人化することで、ふわっと=押しつけがましくなく伝わってきます。相談室仕立てという工夫が光り(いちおう、かけことば)ました。特別賞：つめが甘いで賞(2時間くらいでつきます) え?
A12	東経123度45分6789は西表島を通っている。	11 pt   4 位   6 sp ほんとなんです。同地には子午線ふれあい館なるものまで建ってるそう。小学生に教えたい。裏表紙でした。あと1ポイントで、ひよ子ゲットは逃したけれど、最多特別賞受賞です。おめでとう。特別賞：へえ～賞×2 / 85へえ～賞 / インパクト賞(インパクト・レイアウト・発想がよい)/国土無賞(西と東の対比が面白い)/西表賞(頑張ってる)イチオシフレーズ：「へえ～」 「東経123度45分6789は西表島を通っている。」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	The LAST Number キコエナイウタ	歌う表紙リターンズ。 デス・ひまわりより進化して、今回は支えている哲学も深いなあと読みました。 巨大なカンチガイ、人はみんなそんなもの。でも、小さな枠の中で、ジタバタとせいっぱい羽ばたき歌うからこそ、人生も鶏生も、ひとしく美しくいとおしい。 ネタに見せかけた感動モノと受けとったのですが、いかに？ ケッコーなお手前でございました。 特別賞：物知り賞(東天紅なんてよく知ってたね) イチオシフレーズ：「コケッココ - - - - - - - -」	13 pt   3 位   1 sp	
B02	『東(ひがし)』	東さん、ってしょっちゅう間違えられてタイヘンだろうなあ、なんて思いを馳せながら読みました。 ただ、人の名前を思い出すときに、こういう勘違いするかなあ？ が、ちょい疑問。漢字より「音」で記憶しますよね。 「ひがしやま」さんと「ひがし」さんを間違える、みたいに。	3 pt   7 位   0 sp	
B03	犬が西向きゃ尾は東	勘亭流(たぶん)の東の文字がどーんと。視覚インパクトで攻めましたね。 ただ、ツッコミのほうも、もともとのことわざが当たり前だよ、っていう意味なので、不発な感。ケルベロスはどうだろう、ウロボロスは？ みたいな、ひねりツッコミはいかがでしょう。 特別賞：DOG賞(よみやすい。)	0 pt   10 位   1 sp	
B04	俺の対面にドミニカ共和国人	凄いな岡部あっぱれ岡部、と連呼する前半の、やつあたりトークの勢いがすばらしいです。 そう、人と人との触れ合いに立場も年齢も性もカンケーない。彼女<部長の不等式の重さ。ネタにみせかけて、実は人類の平等性を訴えかけた熱い作品でした。 ドミニカがヒットして、祝最多特別賞！ 特別賞：東じゃないで賞(東関係ねえ！ でも面白かった)/ドミニカ賞(下山さんとガルベス君がしっかり空気読んでたところ)/ドミニカ賞(ガルベス)/惜しかったで賞 イチオシフレーズ：「俺の対面にドミニカ共和国人」「君の字一色、心に・・・ドーンと・・・響いたよ」「僕の部長の方が、よっぽど、よっぽど・・・可愛いんだからな!!!」	1 pt   9 位   4 sp	
B05	東(トン)		0 pt   10 位   0 sp	

		<p>麻雀ネタが多いなあBブロック。3つですか。え？ 全部レギュラー??</p> <p>なかでこれは、いちばんストレートに愛を語っていただきました。</p> <p>「心の中で鳴っている、あのキャラメル大の大きさの牌が・・・」というくだりに愛があふれてましたね。くれぐれも、おだいじに。</p> <p>イチオシフレーズ：「トンとしか読めない!!」×2 「頭の働かないう こ製造機と化してしまいました」</p>
B06	- 未来へ -	<p>3 pt 7位 1 sp</p> <p>自転車という 動き に託して、悲しみから明日への決意の移りゆきをていねいにたどって好印象です。</p> <p>ひたすら漕ぐ。未来へ向けて漕ぐ。読みながら気持ちが寄り添ってゆけます。</p> <p>ただ、話が抽象的でツクリモノ感がぬぐえないので、具体的な地名を入れるとか、現地を感じさせる工夫をしてみたら、どうだったでしょう。</p> <p>特別賞：特別賞（前向きな気持ちになれる良い話）</p>
B07	東京に出てきて始めて知ったこと	<p>4 pt 5位 2 sp</p> <p>とりあえず「始めて」じゃなく「初めて」です。</p> <p>ワン・ツー・スリー。段階的に見せて、特に東京ハンズがヒット。</p> <p>どうやら、実話なんだそうで。</p> <p>特別賞：勘違い賞（畑はあります。）/実家に帰りたい賞（自分も東京ハンズだと思っていた...）</p> <p>イチオシフレーズ：「東京ハンズ」×2 「901」</p>
B08	Daybreak	<p>23 pt 2位 0 sp</p> <p>1シーン1シーン、ていねいに絵を見せて、まるで絵本を旅しているような。そうか、今の太陽って、もう人工モノなのかと納得してしまいそうなりアリティでした。ほんと、天性のストーリーテラーですね。</p> <p>さあ、どちらを選びますか、とお話を完結させなかったラストが、読者もともに考え込んでしまう効果になって、またユニーク。ひよ子2羽、ゲット、おめでとう!! たいせつに「食べて」やってくださいませ。</p>
B09	家	<p>0 pt 10位 0 sp</p> <p>ひきこもった精神に、おひさまの光があたる。</p> <p>そんなカンタンには変えられないと思うけれど、「嫌」という文字から始まって「好き」に着地するポジティブなラストに好印象。</p>
B10	東と西とを分かつ壁	<p>29 pt 1位 1 sp</p> <p>ベルリン？ それとも架空の世界？</p> <p>音だけで聞かせることで、より悲しみが際立ちます。</p> <p>紙飛行機という、はかなげなツールが、人の思いの無力感を象徴しているような。歴史的な重みへの思いをも誘って、圧勝の首位でしたね、おめでとう!!!</p> <p>特別賞：3位惜しかったで賞（良かったのにジャンケンで負けたからです）</p> <p>イチオシフレーズ：「今から行くよ」</p>
B11	賛歌	<p>4 pt 5位 1 sp</p> <p>ありがち文明論を痛撃！ 東京大好き都会万歳の開き直り姿勢が爽快でした。</p> <p>コンビニ最高、イナカは不便、の具体例を一つ二つ放り込んでやると、もっと主張に実感がこもったと思います。</p> <p>特別賞：コラム賞（コラムっぽい文章であり、着眼点が良い）</p> <p>イチオシフレーズ：「機能美を追求したコンクリートジャングルの美しさ」</p>
B12	「四方より向き合いて戦わん」	<p>10 pt 4位 4 sp</p> <p>麻雀ブロック最終章は爆笑モノで。</p> <p>「ポンポンと簡単にお救いになり」と、あちこちに仕込まれた小ネタのほうは、麻雀を知らない人間にはじゅうぶん楽しめなかったのですが、何よりも執事のような牌の語り口、主との距離の取り方が絶妙でした。祝最多特別賞！</p> <p>特別賞：頑張ったで賞（仕込みの気合の入り具合）/マージャン大賞（数あるマージャンネタの中でも一番おもしろかった）/マージャンネタの中ではよかったで賞（ロン（はあと）やっくま〜ん）/ひねったで賞（麻雀を隠し続けた勇気に乾杯）</p> <p>イチオシフレーズ：「四喜和」「見事なポーカーフェイス」「やっくま〜ん」</p>